

登別漁港の整備促進

〔登別市・継続〕

■ 現状と課題

登別漁港は、登別温泉や水族館、テーマパーク等の豊富な観光資源を背後にもつ第3種漁港であり、スケトウダラを主要魚種として、サケ・イカ等の豊富な水産物に恵まれており、胆振管内における流通拠点漁港として重要な役割を担っております。

また、全国各地からイカ釣り外来船の利用要請が多い漁港となっており、平成14年に第2種漁港から第3種漁港へ昇格指定され、平成14年度から国の直轄事業として整備をいただいております。

これまで、混雑解消対策や衛生管理の向上を目的とした新港地区の拡張整備を実施していただいておりますが、旧港区の岸壁においては老朽化が著しく、漁業者からは防災機能と衛生管理にも対応する安全な施設に改善するよう強く要請されている状況にあります。

■ 要望内容

● 災害に強い漁港づくり

地震や津波など災害に強い施設とするため、東防波堤の改良、旧港区の岸壁耐震化や人工地盤の整備

● 衛生管理型漁港づくり

安心・安全な水産物の供給体制として、漁港全体での衛生管理を推進するため、旧港区の岸壁高質化（屋根、清浄海水）の整備

● 安心して働ける漁港づくり

安心して働ける漁港づくりのため、老朽化による空洞化やエプロン沈下などにより利用を制限している旧港区の岸壁整備



■ 事業効果

● 水産業の振興

● 防災機能の強化

● 外来船の利用増加に伴う地域活性化

● 観光産業への波及

● 就労環境の改善

● 衛生管理の強化によるブランド力の向上